

総論

|                                   |                |            |        |            |        |            |           |
|-----------------------------------|----------------|------------|--------|------------|--------|------------|-----------|
| 満点                                | 200点           | 目標得点       | 156点   | 試験時間       | 100分   | 偏差値        | A:72 B:74 |
| 大問数                               | 4              | 小問数        | 36     |            |        |            |           |
|                                   | <b>【解答形式】</b>  | <b>選択式</b> | 35/36問 | <b>記述式</b> | 1/36問  | <b>論述式</b> | 0/36問     |
|                                   | <b>【問題難易度】</b> | <b>C</b>   | 4/36問  | <b>B</b>   | 13/36問 | <b>A</b>   | 19/36問    |
| ※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す |                |            |        |            |        |            |           |

Topics

- 1：小問数は前年の40問から36問に減少。IVの自由英作文も前年よりシンプルな形式となり、時間的にはかなり余裕のある問題構成となった。
- 2：長文の内容はdigital divide（情報技術の恩恵を享受する知識や環境の格差）について。一般常識があれば平易な内容。
- 3：例年は、語句選択、内容一致、正誤問題を融合させた長文問題が出題されていたが、今年度は大問I [A][B]で正誤問題を独立させ、文法系の問題をここに集中させている。

こんな力が求められる！

- ①語彙に関しては、基本語を充実させることが重要である。経済学部に限って言えば、いわゆる「難語」までも、できるだけ多く詰め込むような努力は不要。distribution（分配）、contribute（貢献する）など、『でか単』PART1～2レベルの単語をしっかりと理解・記憶すれば対応できる。
- ②経済学部は、大問IVの自由英作文に「文法に注意すること」という1文を必ずつけている。内容の独創性などより、まず正確な英文を書くことを要求しているのである。また、経済学部は正誤問題も好んで出題しているが、これらの問題を解く前提として、明らかな文法的ミスを含む英文のおかしさに、きちんと気づくことができる能力が必要である。OS早慶英語、OS慶應英語在籍者は、テキスト巻末の英作文を毎回担当講師に添削してもらうこと。そして、1学期のうちに、「ミスのない英文」を書けるようになること。「うまい英文」を書く練習はその後でよい。

### 【I】

|                     |   |         |          |
|---------------------|---|---------|----------|
| 予想配点                | 30/200 点  | 時間配分の目安 | 20/100 分 |
| 出題内容                | 文法・語法問題<br>『でか単』『完熟』レベル』『でか単』『完熟』ともにPART2   |         |          |
| 出題形式                | 正誤問題（選択）  |         |          |
| 小問別難易度              | ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す<br>(1) A (2) A (3) A (4) C (5) A (6) C (7) C                          |         |          |
| お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 | ○S早慶・○S慶應英語在籍者は文法の Work Sheet、Advanced 英語在籍者はテキストの GRAMMAR 部分の徹底復習。また冬期講習「語法完成ゼミ」を受講し、正誤問題のパターンに精通すること。 |         |          |

#### ●本大問の特徴・概要

[A]は基本的文法、語法の知識を問う問題で、ミスを一問以内におさえたい。

[B]はどちらもかなりの難問。本文を繰り返し読んでも正解に達しない可能性がある。「捨て問」と考えてよい。

#### ●注目すべき小問

[A](1)(b)の能動・受動の間違い、(3)(c)の almost を形容詞的に使う間違い、(4)(c)の much interests (可算・不可算の不一致)、(5)(a)の人主語に convenient を使う間違いなどは、正誤問題以外の形式でもおなじみのものである。合格者はこの5問中4～5問を正解している。

一方[B]のような難問は、基本的な間違いを確実に見つけ(例えば(6)で such a method という単数形の主語に、have という動詞をおいている、など)、それ以外の「あやしい」箇所は運を天にまかせて解答するより他ないだろう。

## 【Ⅱ】

|  |                         |
|--|-------------------------|
| <b>予想配点</b> 70/200 点   | <b>時間配分の目安</b> 30/100 分 |
| <b>出題内容</b> 長文問題<br>〔Word 数〕 1110 words<br>〔『でか単』『完熟』レベル〕 『でか単』『完熟』ともに PART2<br>〔長文テーマ〕 インターネットの登場は、全ての人々に平等な恩恵がもたらされると期待されたが、実際には国や教育レベルによる情報格差 ( digital divide ) が存在し、今後も解消される見込みはない。 |                         |
| <b>出題形式</b> 長文、空所補充 (選択式)、内容一致   |                         |
| <b>小問別難易度</b> ※問題難易度：C 難問、B 可否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す<br>(8) A (9) A (10) A (11) B (12) A (13) A (14) B (15) A (16) A<br>(17) B (18) A (19) A (20) A (21) A (22) B (23) B (24) A            |                         |
| <b>お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連</b><br>『でか単』PART1, 2 を、3 年のできるだけ早期に完成させること。<br>OS 慶應英語在籍者は Practical Exercise の超長文の復習、OS 早慶英語在籍者は 2 学期テキストの超長文の復習をそれぞれ徹底的に行う。                                     |                         |

### ●本大問の特徴・概要

ワード数 1110 のいわゆる「超長文」であるが、このようなボリュームある英文に対応するには、やはり語彙の充実が急務である。基本語の意味、もっと言えばイメージが瞬時に頭に浮かぶ語彙力を持てば、一つ一つの英文の構造分析と意味の把握をスピーディーに行うことができる。正確さを犠牲にせずに、速読ができるのである。経済学部の長文は、SFC (総合政策学部・環境情報学部) や文学部で出題されているものに比べれば内容はかなり平易であり、それほど長さに神経質にならなくとも、基本語彙の徹底的な習得で対応可能である。

### ●注目すべき小問

(13) は、合格者の多くが 3 を選択しており、不正解率が高かった問題である。下線部の前の文に、「コンピュータは常に更新される (updated) 必要がある」という内容が書かれており、続けて「一方でテレビは…の状態でも何年も使用が可能」とあるので、正解は 1 の in its original condition (初期状態のまま) だとわかる。

(14)～(19) は内容一致であるが、(15) は 8 パラグラフ、(18) は 7 パラグラフ、(19) は 3 パラグラフ、という具合に、参照すべき箇所が本文全体にちりばめられている。超長文で、設問の該当箇所をスムーズに探せるかどうかは、最初の読みの正確さにかかっている。

本問文の場合

- ① 「IT 技術の普及により、資本に乏しい企業や国にもビジネスチャンス到来」という楽観論
- ② しかし情報格差は依然として存在
- ③ にもかかわらず楽観論は「テレビなどの旧メディアと同じ発展」を予測
- ④ しかしコンピュータは旧メディアにはない困難

という大雑把な論理展開が最初の読みで押さえられれば、該当箇所はすぐに見つけることができる。そして最初の読みで、スピードを落とさずに正確な読みができるかどうかは、やはり基本語彙の習得にかかっているのである。

## 【Ⅲ】

|   |                         |
|---|-------------------------|
| <b>予想配点</b> 55/200 点  | <b>時間配分の目安</b> 30/100 分 |
| <b>出題内容</b> 長文・会話文問題<br>[Word数] 1131 words<br>[『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』『完熟』ともにPART2<br>[長文テーマ] 「夢を追う若者」「フリーター」「現代の労働者の労働時間の長さ」などをめぐる4人による議論 |                         |
| <b>出題形式</b> 会話文   |                         |
| <b>小問別難易度</b> ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す<br>[A]B [B]B [C]A [D]A [E]C<br>[F]A [G]B [H](a)B (b)B (c)B (d)B                         |                         |
| <b>お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連</b><br>『でか単』PART1, 2   |                         |

### ●本大問の特徴・概要

経済学部ではおなじみの、「三人以上による会話文」である。過去4年のうち、2006年のみ、三人の話者が「自由意志の有無と刑罰における責任の関係」というテーマを語る破格の難問であったが、今年も含めて他の年は「フリーター」「夢を追う若者」などの平易な内容の会話である。ただし、一人の話者が4～5回発言するため、誰がどのような意見なのか混乱しがちである(設問もほとんど話者と意見の対応を問うもので、いわゆる会話表現などの知識は求められていない)。この問題には30分程度かけることが可能であり、メモをしっかりとりながら丁寧に読み進めればかなりの正解率が期待できる。実際合格者の正解率も非常に高かった。

### ●注目すべき小問

[E]は合格者の中にも4を選んだ者が複数いたようである。正解の2は本文中の語句とは異なる表現を用いながら、内容的には一致している。一方4はひっかけで、語句は本文のものを使用しつつ、よく検討すれば内容がずれている。4の意味は「自分の夢が非現実的だと気づくこと、そしてあきらめることは数年後に手遅れになるだろう」であり、本文で語られている「正規雇用の機会を失う」という要素が欠けている。

## 【IV】

|  |   |         |          |
|--|---|---------|----------|
| 予想配点   | 45/200 点                                  | 時間配分の目安 | 20/100 分 |
| 出題内容   | 自由英作文問題<br>『でか単』『完熟』レベル』『でか単』『完熟』ともにPART2 |         |          |
| 出題形式   | 自由英作文                                     |         |          |
| 小問別難易度   | ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す<br>B    |         |          |
| <b>お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連</b>   |   |         |          |
| <p>○S早慶・○S慶應英語在籍者はテキスト巻末の英作文。<br/>         Advanced 国立英語在籍者は前期に和文英訳で基礎を固め、後期から自由英作文の演習に入る。また、夏期・冬期講習のネイティブ講師による英作文講座を受講して練習する。<br/>         Advancedクラス在籍者は1学期に文法の基礎をGrammarで固め、夏期講習の英作文対策講座を受講する。</p> |   |         |          |

### ●本大問の特徴・概要

例年のような、細かな状況設定を課し、そのうえでテーマを選択させて 100 語以上の英文を書かせる、というスタイルから、Taste / Social status / Health / Stereotype / Women Men / Animal welfare / Sustainability という7種類のキーワードのみを与え、このうち2つを使って「食 ( Food )」について英語で論じさせるというスタイルに変化した。例年のものは、細かな状況設定が与えられているがゆえに、かえって自由に発想を広げにくいものであり、その意味では今年はかなり書きやすかったものと思われる。

また語数指定はなくなったが、解答用紙の大きさからみて例年通り 100 ワード強の英文を書くことが必要であった。

慶應義塾大学経済学部の英作文について、必要な力は以下の二つである。

#### ①ミスのない英文を書ける力

この場合のミスとは、inform と notify はどうニュアンスが違うか、といった細かな知識を要するものではない。助動詞の後の本動詞に3単現のSがついているといったレベルの、中学生でも理解できる間違いである。こうしたミスは、指摘されればすぐに気づくのだが、自力で発見、修正できる受験生は本当に少ない。逆に言えば、このレベルのミスを含まない答案が書ければ、それだけで上位答案になる、ということである。そのためには、まずミスに気づく眼力が必要であり、この力は経済学部で毎年出題される正誤問題にも絶対必要であることは前述の通り。

#### ②論理性

例年、経済学部の自由英作文には、「関連性を論理的に説明しなさい(2009年)」「Pay attention to grammar, spelling, use of connecting words, and logic(2008年)」などの但し書きがついており、今年は「2つの概念の関連性を中心に考えを展開させること」とある。つまり、論理的な文章を書け、という要求である。もっとも、これも高度な論理性の話ではなく、自分が今書いている文が、文全体にとって「結論」「理由」「具体例」のうちどれなのかをしっかりと意識すること、また今年の問題に関して言えば、2つの概念の関連性を中心に書くというのは、「目的－手段」「原因－結果」「利益－損失」などの関係を意識して、それが読み手に伝わるように書く、という程度のことである。

①、②の力をつけるためには、できるだけ早い時期に実際に書いてみることにし、そして同じ講師に継続的に添削してもらうことである。○S早慶・○S慶應英語在籍者はテキストの英作文を毎回提出すること。少なくとも1学期中に、「①ミスのない英文を書く」というハードルをクリアすることである。